

新年初刊の時事新報

明年一月一日の時事新報は三十二面以上の大新聞を發行し且つ當日添へて頒布する

新年附録

は海軍畫帖の筆者たる若林海軍大尉の圖案油畫師中に録々の筆ある淺井忠氏の揮毫に成れる帝國軍艦富士、八嶋の圖にして

讀者よは之を無料進呈し當日限り購讀の需に對しては本紙附録合せて金十錢申受く

新年紙面の廣告締切

新年三箇日の時事新報は廣告依頼者時多く取扱上無據左の通り申込期日を相定め廣告欄を締切候著に付廣告依頼の向きは期日に後れ自然掲載され御遺憾無之様至急御申込相成度候

一月一日掲載の分十二月廿八日迄
一月二日掲載の分十二月三十日迄
一月三日掲載の分十二月卅一日迄

社説

今の政黨は何の爲めに争ふか

政黨の公争は立憲政治に免かる可らざるの成行なれども其争は主義の爲めのみ苟も主義以外に争ふものは取りも直さず私争と認む可きものにして之を目するに政黨の名を以てす可らず西洋諸國の例を見るに英國には古來保守自由の兩政黨あり甲は舊慣古例を重んじ乙は改良進歩を主とし互に主義を殊にして互に相對立せり今日に至りては歲月の経過と共に其主義も自から變遷して往昔の區別を見ざるが如しと雖も一方は自から對外の政略に力を專にする其反對に一方は自から内政の政新に心をを用ふるの事實は何人も認むる所にして今の英國の政黨は内治外交の主義を以て公然相争ふものと云ふ可し又米國の合衆共和の兩黨も自から主義を殊にして例へば今回大統領の選挙競争に双方相對して金銀の論を争ひたるが如き明に主義の争と認む可きものにして彼の國々に於て政黨の争點は全く主義の如何に在るの事實を知る可し目下我國の政界にて自由黨と云ひ進歩黨と云ひ互に相對立して互に相争ふ其争は如何と云ふに過般内閣の更迭以來自由黨は前内閣に結託云々の行掛りより現内閣に反對し進歩黨は現内閣の

ならば只その所好に附ねりて其所惡に反對し以て自ら利せんとするの外に理由はなかる可し如何と云へば若しも前後の内閣を比較して双方に主義の相違もあらんには其主義を同するが爲めに進退去就を共にして互に相争ふは自から政黨の事なれども我輩の所見を以てすれば其前後の主義に如何なる相違をも發見する能はざればなり前内閣の時は總理は伊藤、内外務の當局は板垣陸奥の二人なり今度の總理は松方、内外務は板垣陸奥の二人にして更迭と共に人の變りたるは事實なれども板垣伊藤と松方と比較し又板垣陸奥と松方と比較し政治の主義に何程の差違あるや是等の諸人は出身の前後、文武の相違はあれども等しく明治政府の長老にして年來その方向を共にしたるは無論現に松方の如きは前内閣の一員として伊藤と事を同ししたるものとさへあり又大隈は久しく民間に在りて自から政府に反對の説ありたれども本來は伊藤と同功一體の人物にして如何なる點より見るも決して其主義のものと違ひ可らざるに然るに今の政黨の輩が強ひて前後を區別して双方に立分れ互に非難攻撃するとは更に解す可らず或は伊藤は長州出身にして其開闢には長州臭味の少なからざりし其反對に今回の内閣は松方を始めとして薩州出身の輩多きが故に前内閣に緣故の政黨は現内閣を目するに薩州内閣を以てして之に反對し現内閣を助くるものは長州征伐など稱して前内閣を攻撃せんとするが如き此一點より見るも是れ政黨の争の點は薩長の羽翼と爲りて薩州の維持を謀るものなりと云はるるも辯解の辭はなかる可し政黨の本色果して何くに在るや目下の有様を見れば政黨の争は決して主義の爲めに非ず政府の地位を私有財産と認めて互に其得喪を争ひ以て私利を謀らんとするに外ならず言語道斷の舉動にみよれば本來政府は國民全體の政府にして其當局者は國家の公役を務むるものなれば其地位に當りて自家の所見を行ふには眼中たゞ國利の一點のみを見る可き筈なるに恰も之を私有視して私利の爲めに其得喪を争ふは恰も二匹の狼が一個の柿を争ひ只管ふれを攫取らんとして其大小熟否を問はず遂には争ふ所の柿に概行くをも忘るるもの如し柿の實ならんには猿の争に任せて孰れの手に落ちるも差支なければも國家の公役なる政府の地位を柿の如くに見て攫取の醜争を演ずるとは取りも直さず政治賭博を行ふものにして其輩の淺識さ加減は只一笑に付して止む可きも國民全體の迷惑は此上ある可らず我輩の傍觀に堪へざる所なり彼の朝鮮支那の如き例へば閔氏が朝廷に立つも趙姓が國柄を執るも朝鮮人民は之が爲めに喜憂するものなく又李鴻章が勢を失ふて翁同龢の一派が權力を得たりと云ふも支那人が毫も痛痒を感ぜざるは畢竟の國々に於ては政治家が政權を私有して人民の利害に顧みざるが爲めのみ政黨の舉動にして今日の如くなるらんには日本の政治も朝鮮支那と大同小異にして國政の政進は到底見る可らず立憲政黨の眞面目は果して斯くの如きものなるや否や荷も政黨たらんものは國家の利益を第一にして内外に對して其利益を相違するに非ず其利益を相違する可らず否や云々の施設を大切な事として左にも兎に角に自家の主義を實にせしが得ぬに政黨の地位を得んとして互に相争ふふを其

本色なれ主義の相違の爲めに論議攻撃は敢て差支なしと雖も今の政黨は皆て自家の主義を公言せず只前後の内閣を目的として互に相對する其前後の施政に如何なる相違ありやと論議れば蓋も議論の認む可きものなりと云ふ我輩の共々解せざる所なり例へば新聞紙發行停止の事件の如きも當局者は皆て言論自由の方針を約束しながら自ら其約束を反故にしたりとて其違約を咎むるの議論は喧しかりしも本報新聞紙の發行停止は果して國家の爲めに利なるや害なるやとの根本の利害論には寧ろ敢て言及せざるが如き畢竟主義の争に非ざる證據として見る可し其争は尙ほ未だ政黨の公争と認む可らざるなり左れば政黨の人々にして果して國家の利益を謀るの考ならんには先づ主義を明白にして其主義に會ふものは味方と爲し合はざるものは敵と認め主權の如何に由て去就を決す可し斯く決断して投票を眺めたらば局面全く一新して或は自由黨の中にも去て現政府を助くるものあると同時に進歩黨の中にも舉動を一變して反對に立つものもある可し其進退は公明正大、昨非今は是れ主義の爲めにして毫も憚らざる所は斯く可らず斯くの如くにして始めて立憲政黨の本色を見る可きなれども若しも然らず今日の儘に改めずして國家の利益を外にして單に私利の争を争ふものならんには我輩は政黨も藩閥も五十歩百歩、孰れも立憲政治の風には合はざるものとして共々に之を排斥せんとするものなり

北京特報

十二月五日

特派員 杉 幾太郎

李中堂に與ふるの書
某英人の某親王を經て恭親王に呈せし書は過般譯載したるが更に其李中堂に與ふるの書譯して左に掲げん余は斷然、敢て中堂の處理せる清露秘密條約の是非を論ぜんや然かも今時の事態を視るに若し故の曾侯爵をして在らしめば恐らくは之を以て是となさざるべし露國の日本に強迫し遼東の地を清國に復せしめしの際たる清は露の神種を受けしに似たるも實に露の利益は目前一時の利にあらざり現に益なきの裡、正に將來利益の地歩を作り一時利益の陰、正に將來の禍根を萌す去年中堂、日本に向ふの前、露め露公使と訂載せるやの風説洵に人聽を駭かせり其後日本に借款を賠償せんとし露國より借銀せるが如き萬々償密を欠くの誤謬策たる無らんや露國は此貸銀を待み清の税額を把持し他年或は清の國事を阻撓せんとす俄國の新聞に清は有名無實、其實は露に在り云へるを見て知るべし即ち遼東の邊地に露が日本の怨怒を博するの意たる露國の狡謀を言ふにあらざりして其中、露國の私なくんば自ら露の清土を視る其の最も意を加ふる所にして唯他人の先として己れ其利を得る能はざるを恐る故に以て凡そ露の清と交渉の事あるや能く心思を盡して以て將來露の清と交わらんことを期す蓋し露の心なり

けは情も亦其書つ發して人を制敵を以てし茲にしむるの端を固利益も亦相同しを訂議せんとしにあり當時中堂烈敵將に發せんねざるの状を察なけん(中略)近來其力を藉を知らざるなりに計りしものにより而して佛は露を敗れぬ定む可ら清地に事あらば是を以て獨乙強以て佛露の協力清國、獨乙の教の事たり